

2025.7.29.

T.Kobayashi

大相撲名古屋場所観戦気まぐれ日記
混乱・混沌から少し見えた「次の時代」

大相撲名古屋場所初日を目前にしてテレビが故障してしまった。電気屋の店頭で商品探索を行なった上で、インターネット上で商品の品定めをして、ヨドバシドットコムで注文。

初日の午後にテレビが到着、夕方から据付けと初期設定を行ない、テレビが見られる状態になったのは打出しの後になってしまった。

何年ぶりかで初日の全取り組みを見ることができなかった。二日目からはこれまでどおり、全取り組みを鑑賞できるようになり、ほっとひといき。NHK の放送では二日目の中継の中で、かなりの力士の初日の相撲ぶりを紹介するので、殆ど見たことになった。

というようなアクシデントを経て名古屋場所鑑賞が始まった。新しい会場で、新しい横綱の登場ということで背景の演出効果は満点の幕開けになった。

新横綱がどの程度の出来栄になるのかも関心事ではあるが、個人的には、それ以上に安青錦・伯桜鵬・尊富士・草野などの新しい力がどんな働きをするのかに興味がある。

●まずは四日目までじっくり観察

豊昇龍は、初日は今場所好調と言われている高安を難なく裁いたが、二日目に若元春に敗れた。

三日目は安青錦の低い姿勢を押しえつけて潰そうとして、逆に渡し込みで転がされてしまった。さらに四日目は阿炎に好きなように取られて完敗。日に日に粗雑な相撲が表に出てきた感じ。

大の里は、腰の構えのしっかりした動きの速い相撲で三日間完勝したが、四日目に王鵬の攻めに耐えられず引き技を見せ、つけ込まれて完敗。

琴櫻は、相変わらずのよたよた相撲で2勝2敗。横綱・大関の出来栄はこんな程度で、早くも不安が走る場所になってきた。

三役では、霧島（関脇）と高安（小結）が安定感のある相撲を見せており、平幕ではベテランの玉鷲と若手の安青錦・草野が連日良い相撲を見せている。

四日目を終えて全勝は、霧島・玉鷲・一山本・御嶽海の四力士だけになってしまった。

●序盤終了

五日目、横綱豊昇龍の休場が報じられた。前半の土俵で光っていたのは草野。相撲の基本がしっかり身に付いているようで、見てもきれいさと安心感がある。攻められても丁寧に対応しながら、あわてずに自分の形に持って行けている。豪ノ山が伯桜鵬を一直線に押し切った相撲も見応えがあった。

高安が若隆景を押し倒した相撲は、全盛期の再来を感じさせる内容だった。

安青錦は、霧島を相手にしても低い姿勢を保ちながら善戦し、最後は霧島が上から圧力をかける瞬間を狙って内無双で転がした。

序盤五日間が終わったが、全勝で通過できたのは平幕の一山本と御嶽海だけだった。辛うじて1敗で追走している役力士三人（大の里・霧島・高安）の後に安青錦・玉鷲・豪ノ山・宇良・草野が並んだ。

●中日終了

中日を終えて1敗で残ることができたのは4人になった。

霧島の安定した腰の構えと落ちついた相撲の流れが目立ってきた。また、年令を感じさせない速さと力強さが光る玉鷲の土俵が一段抜き出ている感じがした。

混戦状態が懸念される展開になってきたが、そこに並ぶ顔ぶれの中に若手力士が何人か加わっていることと、その若手力士が、基本技術をきちんと身につけた正統派の技能相撲であることが頼もしい。

次の時代が動いていることを実感する側面だ。

●十日目終了

結びの一番で横綱大の里が土俵際のツメを欠き、玉鷲の粘り腰と強烈な突き落としに敗れた。本来ならば大きな番狂わせと言わなければならないのだが、報道の内容は「40才8ヶ月の金星」一色に染められた。横綱が平幕に敗れても賜杯争いに何ら影響を与えないという珍事。

7勝1敗	霧島、玉鷲、一山本、草野
6勝2敗	大の里、高安、安青錦、宇良、琴勝峰、御嶽海

結果的に、1敗は一山本だけになり、その後を6力士が追う形になったが、その中にいる役力士は霧島だけにな

ってしまった。大相撲が、「混乱」の時代から「混沌」の時代に入ったことが感じられる。安青錦と草野の相撲に安定感と巧さが感じられるが、どこまで走れるかはわからない。

●十一日目いよいよ終盤戦

草野は御嶽海と対戦。御嶽海は全盛期を思わせる寄り身を見せはしたが、草野の体を回転させながら打つ、技巧的にも優れた上手投げで御嶽海が転がされた。

琴勝峰は隆の勝を速攻で寄り切り、安青錦は阿炎の粗雑な攻めをかわして寄り切り、高安と一山本の対決は突き押しを交えた差し手争いの結果、高安の下手投げに凱歌が上がった。

9勝1敗	一山本
8勝2敗	霧島、玉鷲、安青錦、草野、琴勝峰、御嶽海

玉鷲は、今場所まともな相撲が取れていない琴櫻を突き飛ばすのではないかと期待したが、残念ながら敗退。

大の里は、今場所好調な霧島に勝てないのではないかと心配したが、上手捻りで辛うじて勝った。霧島は3敗に後退して、賜杯争いのトップ集団は平幕力士4人になった。

明日から、この表の中の直接対決が続くので、「混沌」の時代は「混迷」に変わるのだろうか。

●十二日目

熱海富士・御嶽海戦は、熱海富士の鋭いおっつけに凱歌が上がり、御嶽海の差し手も寄り身も通じなかった。熱海富士は3敗を堅持した。

安青錦・玉鷲戦は、玉鷲の突きをはね除けて低い位置でまわしを取った安青錦が、まわしを引くやいなや放った強烈な下手投げで大先輩を転がした。

琴勝峰・高安戦は、高安の強烈なかち上げで始まったが、高安の二の矢の突きが出るのに合わせて琴勝峰がひらりと体をかわして呆気なく勝負がついた。

草野・若隆景戦は、相撲の巧い草野と言えども、若隆景の巧さには届かなかった。若隆景の鋭いおっつけからの両差しに草野は完敗。

霧島・琴櫻戦はおおかたの予想に反して、琴櫻が防戦の後巻きかえに成功して逆襲に入り、寄り切り。霧島の相撲は、今場所の霧島らしくなかった。

一山本・大の里戦は、一山本の立ち合いの猛攻に、我慢できずに後退しながら叩いた大の里が、土俵を割ったが、物言いがつき、同体で取り直し。取り直し後の一番は大の里が勝ちだったが、途中で何度か引き技を出しており、今場所の相撲の質の低さを露呈した。今場所は取り組みの流れの中で攻めきれずに引く場面が数多く見られる。攻めきれない何かがあって引くのか、単なる悪い癖で引くのか

10勝2敗	安青錦、琴勝峰
9勝3敗	大の里、一山本、熱海富士、草野

は本人しかわからないが・・・。

結局 2 敗は安青錦・琴勝峰の二人が残り、3 敗で四力士が追う形になった。

●十三日目

安青錦は、一山本の突っ張りを受けながらもうまく左を差して、自分の形に運び2敗を守った。

草野は、霧島が上手を引きつけて寄りにかかるとしたところで、タイミングの良い外掛けで3敗を堅持。

熱海富士は、琴櫻の右をおっつけて制しあっさり寄り切りこれまた3敗。

11勝2敗	安青錦、琴勝峰
10勝3敗	熱海富士、草野

結びの一番、琴勝峰は大の里を振り回すような上手投げで転がして2敗を守った。優勝争いは4人の平幕力士に絞られた。

●十四日目

安青錦(2敗)と草野(3敗)戦は、巧さを感じる二人の対決で立ち合いから目が離せなかった。

僅かに速さに勝る草野が勝ち、安青錦を3敗に引き下ろした。

熱海富士は高安に良いところなく敗れて後退し、琴勝峰が単独トップとなり、平幕の若手三力士が賜杯を争う形になった。打出し後に千秋楽の取り組みが発表された。

12勝2敗	琴勝峰
11勝3敗	安青錦、草野

琴勝峰・安青錦戦、草野・高安戦が組まれた。

毎場所十四日目になると三賞の行方を占うのだが、今場所は候補者を考える意味がないのでやめることにした。

●千秋楽

安青錦はいつものように低い姿勢で立ち上がったが、どこかぎこちなく、肩に力が入っていて腰の座りが甘いように見えた。琴勝峰のいなしに泳いで土俵中央に転がってしまい、琴勝峰の優勝が決まった。安青錦の相撲としては珍しい負け方になったので、おそらく相当の緊張があったと思われる。

高安はかちあげで草野を起こした後、猛烈な突き押しで攻めまくり、土俵外に突き出した。新入幕を相手に格の違い見せつけた一番だった。

優勝を左右する一番「安青錦・琴勝峰戦」と「草野・高安戦」が連続したため、会場の空気はここでピークに達してしまい、結びの横綱・大関戦はおまけのような感じになってしまった。

そして15日間の暑い戦いが終り、優勝は琴勝峰(13勝2敗)、殊勲賞は玉鷲・琴勝峰、技能賞は安青錦・草野、敢闘賞は琴勝峰・草野・藤ノ川という結末になった。三賞はややばらまき過ぎの感もあるが、役力士の影が薄い中で盛り上げてくれた平幕力士への謝礼の意と読むことにした。

●余談の部

豊昇龍は復活の可能性があるのか。直前の二場所の成績だけが評価されて横綱に昇進した。そして横綱昇進後に15日間フル出場できたのは一場所だけ。この危惧すべき不安材料を克服出来ることを祈るばかり。琴櫻の大関昇進についても同様のことが言える。大関昇進後九場所になるが、負け越し一場所・8勝7敗が四場所という出来栄え。

三役で10勝を上げた力士について、「大関昇進への足がかり」と、また騒いでいるが…………。

*添付資料:次葉参照

表-1:年代別成績分布(2025年名古屋場所)

幕内の全力士の成績を5才刻みで年齢別分布図にまとめてみた。

いくつかの景色が読み取れるような気がする。

表-2:六場所の成績(2024年9月~2025年7月)

勝率6割以上の力士はわずか7人

<添付資料>

表-1:年代別成績分布(2025年名古屋場所)

	~20才	21~25才	26~30才	31~35才	36~40才
13勝2敗		琴勝峰			
12勝3敗					
11勝4敗		大の里 熱海富士 安青錦 草野			玉鷲
10勝5敗	藤ノ川		若隆景	御嶽海 高安	
9勝6敗			隆の勝 翠富士 豪ノ山	正代 美ノ海 一山本 阿炎	
8勝7敗		平戸海 伯桜鵬	琴櫻 霧島	宇良	
負越し		琴栄峰 王鵬 阿武剋	豊昇龍 嘉陽 朝紅龍 明生 金峰山 尊富士 欧勝馬 獅司 時疾風 狼雅	大栄翔 遠藤 千代翔馬 翔猿 若元春	英乃海 佐田の海
合計(人数)	1	10	16	12	3
勝越し力士	100%	70%	37.5%	58.3%	33.3%

<添付資料>

表-2:六場所の成績(2024年9月~2025年7月)

(成績表示=勝-敗-休)

力士名	成績	勝率	力士名	成績	勝率
豊昇龍	51-24-15	0.567	大の里	69-21	0.767
琴櫻	51-39	0.567	大栄翔	46-29-15	0.511
霧島	56-34	0.622	若隆景	60-30	0.667
欧勝馬	44-46	0.489	高安	54-36	0.600
安青錦	61-21	0.744	若元春	49-41	0.544
王鵬	47-43	0.522	阿炎	45-45	0.500
阿武剋	49-41	0.544	金峰山	48-42	0.533
伯桜鵬	53-37	0.589	玉鷲	51-39	0.567
平戸海	41-49	0.456	明生	40-50	0.444
尊富士	53-35-2	0.589	豪ノ山	45-45	0.500
翔猿	37-51-2	0.411	遠藤	37-38-15	0.411
佐田の海	42-48	0.467	一山本	44-46	0.489
宇良	41-48-1	0.456	千代翔馬	41-49	0.456
熱海富士	45-45	0.500	狼雅	41-37-12	0.456
隆の勝	41-49	0.456	時疾風	46-44	0.567
翠富士	44-46	0.489	朝紅龍	48-42	0.533
美ノ海	42-48	0.467	正代	41-49	0.456
草野	51-15	0.773	藤ノ川	50-29-3	0.610
琴勝峰	42-42-6	0.467	英乃海	42-46-2	0.467
嘉陽	46-44	0.567	御嶽海	37-53	0.411
琴栄峰	46-36	0.561	獅司	47-43	0.522